

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第61回
全日本合気道演武大会



総合演武＝植芝守央合気道道主

さらなる合気の隆盛誇る



植芝守央合気道道主による総合演武

大会は定刻の正午から開始した。初めに可児晋大会副会長・合気会理事が開会の辞を述べ、続いて植芝守央合気道道主が挨拶を行った。

「現在合気道は、世界約140の国と地域に大きな輪が出来上がっております。このような輪ができたのは、開祖植芝盛平翁が創始した合気道の素晴らしさゆえであるほか、本大会が振興・普及の原動力となっております。また先達から今日に至るまで、多くの方々が真摯に合気道に取り組んでこられたからです。生前、植芝盛平翁は『合気道を通じて和合の心が世界に移るように』とおっしゃいました。そのことに少しでも近づけるように、努力して進んで

第61回全日本合気道演武大会（主催Ⅱ合気会）が5月25日、日本武道館で開催された。大会では合気道本部道場師範、指導員、全国の道場から集まった師範、修業者など7500名以上が演武を行った。

今大会はコロナ後に賑わいを見せた第60回大会以上に熱気を帯び、演武者は日々の稽古の成果を存分に発揮した。



山谷えり子参議院議員・
日本武道館常任理事



植芝守央合気道主



植芝充央本部道場長



多田宏本部師範

「合気道は言葉では表せない美しさ、清らかさ、そして躍動感がある武道です。今日のこの一日を明日からの稽古に繋げ、皆様と共に合気道と繋がれた喜びを広め、美しい社会をつくることを願っています」

第二部では海外道場の団体演武や、外国籍の指導者演武など国際色豊かな演武をはじめ、道場演武、指導者演武が行われた。自由演武の最後には、多田宏本部師範が登場。場内の視線が一点に集まる中、淀みな追い迫る演武が行われた。

演武の最後は植芝道主が総合演武として立技、座技、多人掛けなどを披露した。演武が終わると、場内から割れんばかりの拍手が送られ、大会は盛会のうちに終了した。

続いて、山谷えり子参議院議員・日本武道館常任理事が来賓挨拶を述べた。

続いて山田美樹衆議院議員の来賓挨拶、祝辞披露が行われ開会式は終了した。

行きたく思っております。そのためには日々の稽古を大切にしていかなければなりません。昨年の第60回大会はコロナ禍からの『よみがえり』の大会でした。今年はさらに一歩前に進む大会にしていきたいと思います。本日演武される皆様方には、先達への感謝の気持ちを忘れずに、一期一会の念を持って演武に臨んでいただきたいと思っています」

続いて山田美樹衆議院議員の来賓挨拶、祝辞披露が行われ開会式は終了した。

演武は二部制で行われ、大道場に設置された五つの会場で各団体が演武を披露した。

第一部では学生合気道連盟、本部道場指導部師範の演武から始まり、続いて全国各地の道場、社会人団体による団体演武が行われた。老若男女の合気道修業者が日々の稽古の成果を発揮し、時間いっぱい演武を行った。第一部は、植芝充央合気道本部道場長の自由演武によって締め括られた。



横田愛明本部道場指導部師範



菅原繁本部道場指導部師範



櫻井寛幸本部道場指導部師範



森智洋本部道場指導部師範



小林幸光本部道場指導部師範



難波弘之本部道場指導部師範



桂田英路本部道場指導部師範

◀ 入江嘉信本部道場指導部師範

合気道本部道場 師範演武



栗林孝典本部道場指導部師範



金澤威本部道場指導部師範



藤巻宏本部道場指導部師範



日野皓正本部道場指導部師範

好評発売中！

合気道の歴史とその理念、稽古法、基本的な技の解説：
合気道の全てを網羅した決定版。

合気道 その歴史と技法

合気道道主

植芝守央^{うえしばもちる} 著

四六判・上製・362頁・定価2640円



開祖 植芝盛平



合気道道主 植芝守央



二代道主 植芝吉村丸

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

(公財) 日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



遠藤征四郎本部道場指導部師範



安野正敏本部道場指導部師範



鳥海幸一本部道場指導部師範



関昭二本部道場指導部師範



鈴木順子鈴木道場道場長



大和田幸正茨城支部道場指導部師範



磯山俊博茨城支部道場指導部師範



五月女重夫合気道弘龍會明心館道場館長



石原克博石芯塾師範



吉田智晋大阪合気会指導部師範



稲垣繁實茨城支部道場指導部師範



澤田俊晴央名会氣守道場道場長



永島義道
茨城支部道場指導部師範

各道場 師範演武



菅原美喜子合気道奥州道場道場長



田邊孝美青森県武道館道場道場長



白川勝敏合気道神武錬成塾塾長



菅沼守人合気道祥平塾道場長



滝本清三尾張合気会会長



秋本英裕茨城支部道場指導部師範



堀井悦二相生會師範



横山清一武産塾合気道修練道場道場長



畑山憲吾合気道研心会代表



五十嵐和男合気道五十嵐道場道場長



木村二郎合気道大阪武育会会長



嶋本勝行
合気道豊中正泉寺道場道場長



窪田育弘奈良合気会師範



日高浩岩手山麓誠風館館長



小林保雄合気道小林道場総師範



船越光雄合気道爽武塾塾長



岡本洋子参同会合気道京都師範

各道場演武



【参加者の声】

・日々稽古を積み重ねてはいますが、上手な演武をされている先生を見ると、もっと自分も稽古を頑張らなければ、と実感します。（大阪・男性）

・毎年道場のみんなで参加していますが、いつも勉強になることばかりです。今回も多くの課題を見つけたので、明日からの稽古に活かしたいと思います。（京都・女性）

・合気道を13年続けていますが、初めて全日本演武大会に出場しました。とても良い経験になりました。また来年も出場できるように、稽古を頑張ります。（フランス・男性）

・今回、道場の先生の受けとして出場させていただきました。また来年も出場できるように、稽古を頑張ります。集中して演武することができました。（ドイツ・男性）



○植芝守央合気道道主インタビュー

この大会は第14回大会までは日比谷公会堂で行っていましたが、昭和44（1969）年10月の「植芝盛平開祖追悼 全日本合気道演武大会」を日本武道館で開催し、その後の第15回大会からは毎年日本武道館で開催しています。

昭和54（1979）年の第17回大会には、私の父（植芝吉祥丸二代道主）が体調を崩して5月の大会に出られなくなった時、28歳の私が大会の総合演武を務めました。まだ努められるような立場でもなかったため、「なんとかやり遂げなければ」と一生懸命演武したことが印象に残っております。

そのほか開祖生誕100周年大会（第21回大会）、植芝吉祥丸二代道主の



植芝守央合気道道主

追悼演武大会（第37回大会）など思い出に残っています。



植芝吉祥丸二代道主追悼の第37回全日本合気道演武大会（1999年5月）にて演武する植芝守央道主



第17回全日本合気道演武大会（1979年5月）の総合演武を務める植芝守央道主（右）

第46回全日本高齢者武道大会

冴わたる一老成円熟の妙技数々



剣道・内閣総理大臣賞争奪戦＝松原（左）がコテを狙う

第46回全日本高齢者武道大会（主催Ⅱ全国老人福祉助成会、共催Ⅱ全日本高齢剣友会）が6月3日、日本武道館で開催された。大会には生涯武道を実践する約650名の参加者が集まった。各試合場では、衰え知らずの白熱した試合が繰り広げられた。

寿A組と寿B組の優勝者による内閣総理大臣賞争奪戦では、寿B組優勝の松原寛治（山口）が寿A組優勝の常光彰（東京）を3度にわたる延長戦の末に下し、内閣総理大臣賞に輝いた。



開会式では、国歌斉唱の後、全員で物故者（過去の大会に出場した故人）に黙禱を捧げた。次に、成元善一全国老人福祉助成会理事長と、岩立三郎全日本高齢剣友会会長が挨拶を行い、網代忠宏全日本剣道連盟会長、市野保己全日本銃剣道連盟副会長がそれぞれ来賓祝辞を述べた。功労者顕彰、審判長挨拶に続き、93歳の伊澤豪人選手（剣道・東京）が瀧刺と選手宣誓を行った。

開会式の終了後、日本剣道形、居合、銃剣道形の演武が披露され、競技に入った。

◆ 剣道

● 内閣総理大臣賞争奪戦

松原と常光の対戦は、本戦で決着がつかず、延長戦に突入。両者ともに技を繰り出すものの、決め手に欠く。2度の延長戦でも勝敗がつかず、5分間の休憩を挟み3度目の延長戦に突入。激闘の末、松原が一瞬の隙を突きメンで勝利。内閣総理大臣賞を獲得した。

◎ 内閣総理大臣賞・寿B組優勝

■ 松原寛治（山口）

「ほつとしました。これに驕らず、



剣道・女子争奪戦＝太田（左）がメンを決めて勝利

今からまたさらに頑張ります。このような素晴らしい賞をいただけて光栄です。リーグ突破するまでは体勢が定まりませんでした。最後はじつくと気持ちがほぐれて、最後はじつくり自分の剣道ができました。体調をしつかり整えて、来年もチャレンジしたいと思います」

● 女子争奪戦

女子B組を勝ち上がった太田祐子（青森）と女子A組を勝ち上がった濱本智子（埼玉）が対戦。試合は延長戦で太田が見事なメンを決めて勝利。女子の争奪戦を制した。

● 寿A組（85歳以上）

決勝は、過去に寿B組を制し、内閣総理大臣賞にも輝いた常光彰と、西山義信（栃木）の対戦。試合は、常光がメンで先取すると、その後も果敢に攻め続けて勝利。常光が寿A組で初優勝を飾った。

● 寿B組（80～84歳）

決勝は、松原寛治と岡本邦靖（東京）の対戦。試合中盤、松原がドウを奪い勝利。寿B組で優勝し、内閣総理大臣賞争奪戦に駒を進めた。

● 男子団体

決勝は栃木と神奈川の対戦。先鋒が引き分けて続く次鋒戦。中田秀幸（栃木）と岩崎政彦（神奈川）の顔合わせ。試合は、中田が岩崎のメンを捉えて先取すると、その一本を守り切って勝利を収めた。続く中堅戦は引き分け、むかえた副将戦。小田弘（栃木）が板垣好彦（神奈川）からメンを決めて勝利。大将戦は引き分けで、最終スコア2―0で栃木が団体戦を制した。

● 女子団体

愛知と神奈川の決勝。先鋒戦、與儀美江子（愛知）が有馬秋子（神奈川）のメンを捉えて勝利する。中堅戦と大将戦は引き分けとなり愛知が優勝に輝いた。



内閣総理大臣賞
松原寛治



女子争奪戦制覇
太田祐子



剣道・女子団体戦優勝＝愛知県



剣道・男子団体戦優勝＝栃木県

◆銃剣道

●個人戦

決勝は相澤美智夫（宮城）と水船一洋（北海道）の対戦。試合は相澤がドウを2本決めきり勝利を収め、初出場で初優勝を果たした。



銃剣道・個人戦決勝＝積極的に攻める相澤（右）

◎優勝Ⅱ相澤美智夫（宮城）

「25年ぶりに緊張しました。初めて出場していい結果で終わることができてよかったです。これから毎年出場できればと思っています。今回、私がこの大会に出場したことで、若い人たちに火がついて来年以降の大会参加者が増えればいいなと思います」

●団体戦（3人制）

栃木と千葉の決勝。先鋒戦は、乙丸勝樹（千葉）と、鈴木利広（栃木）の対戦。試合は、鈴木がドウを先取するも、乙丸がその後2本決めて逆転で勝利。次鋒戦は福田浩之（栃木）と小川功（千葉）の顔合わせ。試合は両者決め手に欠き、試合終了。旗判定の結果、福田が勝利。大將戦は栃木の不戦勝となり、2－1で栃木が団体戦を制した。

●基本技競技

本種目では、競技時間4分以内に基本技6種類を元立、習技者を交代して実施し、技の優劣を競う。結果は鈴木利広が団体戦に続き、優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ鈴木利広（栃木）

「団体戦は基本に忠実に攻めること

を意識しました。基本技競技は関東のブロック指導員をしているので、お手本になるような結果を出すことができてよかったです。来年以降もしっかり準備して大会に出場できればと思います」



銃剣道・個人戦入賞者（右から相澤、水船、乙丸）



銃剣道・基本技競技入賞者（右から鈴木（利）、乙丸、鈴木（彰））



銃剣道・団体戦優勝＝栃木県（右から福田、山田、鈴木）

【大会結果】

	部門	優勝	準優勝	3位
剣道	男子団体	栃木県	神奈川県	福岡県 茨城県
	女子団体	愛知県	神奈川県	大阪府 茨城県
	寿A (85歳以上)	常光 彰 (東京)	西山 義信 (栃木)	雨宮 正一 (埼玉) 上北 朝也 (愛知)
	寿B (80歳～84歳)	松原 寛治 (山口) ※内閣総理大臣賞獲得	岡本 邦靖 (東京)	澤口 高一 (山形) 小菅 昇 (東京)
	特 (75歳～79歳)	渡辺 三則 (高知)	宇賀 廣和 (香川)	西山 知太郎 (新潟) 熊谷 進 (神奈川)
	A (70歳～74歳)	小田 弘 (栃木)	川上 満 (埼玉)	田邊 重義 (愛媛) 戸張 恒治 (滋賀)
	B (65歳～69歳)	西野 隆 (茨城)	鈴木 賢二 (長野)	加茂田 博文 (神奈川) 林 明人 (茨城)
	C (55歳～64歳)	土屋 誠 (神奈川)	鈴木 敏郎 (東京)	鈴木 康文 (神奈川) 神尾 敬弘 (静岡)
	女子A (65歳以上)	濱本 智子 (埼玉)	杉山 久美子 (大阪)	飯田 千加代 (茨城) アンダーソン 恵美 (福島)
	女子B (55歳～64歳)	太田 祐子 (青森) ※女子争奪戦勝利	千葉 まり子 (千葉)	石川 美奈子 (新潟) 川原 清美 (兵庫)
銃剣道	団体戦	栃木県	千葉県	静岡県
	個人戦 (50歳以上)	相澤 美智夫 (宮城)	水船 一洋 (北海道)	乙丸 勝樹 (千葉)
	基本技競技	鈴木 利広 (栃木)	乙丸 勝樹 (千葉)	鈴木 彰 (静岡)

日本武道館の単行本



剣道の文化誌 明治大学教授 長尾 進 著
四六判・上製・480項・定価2,640円

本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いつながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひ一読を。



剣道 その歴史と技法 埼玉大学名誉教授 大保木輝雄 著
四六判・上製・516項・定価2,640円

本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。



合気道 その歴史と技法 合気道道主 植芝守央 著
四六判・上製・362項・定価2,640円

世界140の国と地域、国内2,400の道場・団体で愛好される合気道。開祖・植芝盛平翁の生涯、植芝吉祥丸二代道主による普及・振興、さらなる発展に繋げた現道主による取り組み、その歴史の中で培われ伝え続けてこられた合気道の理念、それを体現する稽古法、基本的な技法の解説……合気道の全てを網羅した決定版。



空手道 その歴史と技法 小山正辰・和田光二・嘉手苺徹 著
四六判・上製・548項・定価2,640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苺徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苺氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一作。



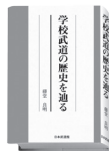
マンガ・日本武道風土記 漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著
B5判・248項・定価1,100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐってみては。



死ぬまで弓道 弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2,640円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8か月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自伝を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全量で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ



学校武道の歴史を辿る 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・354項・定価2,640円

明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

ご注文・お問い合わせ

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>

